

令和6年度

第 1 回

進路説明会資料

- I 進路の選択にあたって
- II 中学校卒業後の進路について
- III 推薦制度について
- IV 奨学金制度について
- V 本校の進路状況について

〈資料〉 1年間の予定・進路の予定
進路だより

令和6年6月14日（金）

練馬区立上石神井中学校

目 次

I	進路の選択にあたって	1
1	就職について	2
2	進学について	2
3	進路決定までの手順	4
II	中学校卒業後の進路について	5
1	高等学校	6
2	高等専門学校	11
3	専修学校高等課程・各種学校	12
4	都立職業能力開発センター	15
5	就職	16
III	推薦制度について	18
	上石神井中学校の推薦基準について	19
IV	奨学金制度について	20
V	本校の進路状況について	21
〈資料〉	1年間の予定・進路の予定 進路だより	

I 進路の選択にあたって

複雑多様なこの社会の中で、15歳という年齢で自分の進路を選択することは生徒本人にとっても、保護者にとっても、悩み多いところです。しかし、その時期は誰にでもやってきます。そして、乗り越えていかなければなりません。

人間は社会とのかかわりの中で生活をしています。そのかかわりなしでは生きていくことはできないと言っても過言ではないでしょう。その時代、その年代に応じた自分の人生をどのように生きていくかを考えることは、誰にでも必要なことであり、大切なことです。

中学校第3学年における進路選択を、単に高等学校選びと考えるのは、適切ではありません。中学校の卒業を人生の1つの岐路と考え、真剣にそして慎重に具体的な進路の決定に臨まなければなりません。

また、中学校卒業後の進路にかかわらず、進路選択には以下に示すいくつかの観点・要素について検討することが必要です。

- | | | |
|---|-------------------------|------|
| ① | 自分は、どのようなことに適しているか。 | (適性) |
| ② | 自分は、どのようなことができるのか。 | (能力) |
| ③ | 自分がやりたいこと、自分の好きなことは何か。 | (興味) |
| ④ | 自分は、将来どうなることを望んでいるか。 | (期待) |
| ⑤ | これからの時代・社会はどうなるか。 | (展望) |
| ⑥ | 自分は、生活や学習にどう取り組んでいるか。 | (意欲) |
| ⑦ | 具体的な希望進路が、自分の家庭に照らし適切か。 | (環境) |

これらの観点・要素を考え、自分の長所・短所などを理解し、将来の展望の上に立って、自分の考えで(主体的に)、客観的により望ましい進路を選択してほしいと願っています。

1 就職について

誰でもやがては就職します。人によってその時期が早い、遅いかの違いがあるだけです。現在、中学校卒業後に高等学校へ進学する人が圧倒的に多い状況にあります。「就職」というと何か遠くのこのように思う人もいますが、特に生徒のみなさんには、この機会に就職についても考えられるようになってほしいと思います。

中学校を卒業してからの時間は加速度的に進みます。気が付くと目の前には、大学進学・専門学校進学・就職がひかえています。具体的な選択はその時に検討することとしても、すぐに来てくる将来への道に対する準備はしておくことが大切です。

さて、中学校卒業後に就職する場合について、考えてみましょう。

健康で、実社会の一員として職場で働き、自分の力を実際の社会に役立たせることは素晴らしいことです。早くから技術や技能を身に付け、その道のベテランとなり、一人前の社会人としての生活経験が豊かであることは、その人の人生にとってプラスになるでしょう。

就職の第一歩は、職業を選ぶことから始まります。一口に職業といってもいろいろなものがあります。職業の種類や内容・特徴についてよく調べ、自分の興味や性格をよく考え、選択した職業で続けていくことができるかどうか判断して、就職する必要があります。

「働くこと」とは、自分が直接・間接的に社会人としての責任をもつことでもあります。企業の中学生に対する募集状況はハローワークの担当者から伝えられますが、厳しい状況が続いています。「進学する学校がないから」「進学できる学校が見つからないから」「仕方がないから」という考えで就職しても長続きしません。社会で働くということは、上級学校に進学して、教科書やテキストに取り組み、生徒として守られる立場での学習とは、内容・次元の異なる勉強が必要です。職場で必要とされているのは、社会人としての「コミュニケーション力、やる気、人間力」です。それは、「自分で考えて行動できる力」でもあります。ですから、勉強しなければ仕事を続けられないとも言えます。

「自分の将来、就職してからの展望」をもち、「目的意識」をはっきりとさせ、就職の道を選ぶことが大切です。

2 進学について

中学校卒業後の上級学校の選択にあたり、何を第一に考えるべきでしょうか。一般的な傾向として「良い学校に入りたい」と答えが返ってくる人が多いようです。では、「良い学校」とはどのような学校でしょうか。「学力が高い」「大学への進学率が高い」ということでしょうか。

**「良い学校」とは、他人が良いという学校ではなく、
入学する「自分」にとって「望ましい」学校でなければなりません。**

「良い学校」とはその人が入学し、卒業までの間の学校生活が有意義で、充実して過ごせる学校のことです。このことは生徒一人一人にとっての「良い学校」がそれぞれ異なっているということに他なりません。本人にとって最もふさわしい学校が「良い」学校です。

他人の判断や学力のみを基準にして学校を選ぶと、入学後「校風が合わない」「こんなはずではなかった。」ということになりかねません。そして、学業が続けられない状況を招くことになる場合もあります。

自分の性格に合い、能力を活かし、自分にとって最善の進路選択をするにはどうしたらよいか、どのように考えなければならないか、いくつかの項目を挙げておきます。

(1) 何の目的で「進学」するのともう一度考える。

自分がなぜ上級学校へ進むのかがはっきりしていないと、進学後に学業と学業以外の様々な刺激に翻弄され、本来の目的が果たせないまま時間を空費してしまいます。空費だけなら取り戻せますが、脇道にそれてしまうと人生そのものに悔いを残す結果になる場合もあります。

つまり、自分で納得し、目的意識をもって進学することが大切です。中学卒業後の学校には高等学校だけでなく、高等専門学校、専修学校高等課程（高等専修学校）、各種学校等様々なコースがあります。

(2) 学校についてよく調べる。

自分で、希望する学校を直接訪問し、学校の実態を見ることが大切です。土日や休日に行われる「文化祭」や「体育祭」、「学校説明会」、授業公開や一日体験入学に参加し、納得のいくまで調べる必要があります。実際に学校を見ることで、よりいっそう理解を深めることができます。昨年度はコロナ禍で見学を予約制にする学校、オンラインで実施する学校が多くなりました。今年度はどのようになるか、現時点では未定ですが、各校のホームページや資料などを活用して確認することが大切です。学校からも必要な情報は提供しますが、自分から積極的に情報を得ることも必要です。

学校によっては、訪問したときに個別相談を受け付ける学校があります。そこで学校を見極めるためのポイントをいくつか示します。

① 学校について	ア：教育方針	イ：伝統・校風	ウ：生活指導の方針
② 教育内容について	ア：設置されている課程・学科 ウ：得られる資格	イ：教育内容と特色 エ：施設・設備	
③ 特別活動のようす	ア：部活動・生徒会活動	イ：課外活動の内容	
④ 通学など	ア：学校の位置	イ：通学所要時間	ウ：学校周辺の環境
⑤ 進路指導	ア：卒業後の進路状況 ウ：就職状況	イ：大学への推薦制度とその状況	
⑥ その他	ア：入学金・毎月の納入金の額 イ：そのほかにかかる費用 (制服・靴・教科書・教材費・部活動費用など)		

(3) 推薦入学制度について理解する。

多くの学校には推薦制度・優遇制度があります。特に私立高等学校の多くは中学校での学習成績をもとに第一志望・第二志望での推薦や、優遇制度を設けています。事前に手続きが必要ですので個々の学校についてよく調べ、担任や学年の先生と密接に連絡を取り合うようにしてください。

(4) 自分自身にあった学校を選択し、ゆとりをもって考える。

少し高め学力を要する学校に目標をおいて学習する必要がありますが、実際に受験する学校は合格の可能性の高い学校を具体的に選ぶ必要があります。入学後も、学力面で余裕をもって学習活動に臨むことができます。無理な背伸びは、たとえ入学したとしても、自分自身に無理を強いることとなります。

(5) 志望校は、生徒本人が決める。

高等学校や専修学校など義務教育を卒業してからの学校生活には、自分の意志に基づく厳しい自主性が要求されます。志望校選択にあたっては人任せにするのではなく、進学を希望する自分がしっかり考え、保護者・兄弟・担任・先輩などの話をよく聞いて参考にしてください。

(6) 家庭内で納得のいくまで話し合う。

進路選択にあたっては、自分の希望・学力以外に、家庭の事情・家族の一員としての責任、将来の目標、自分の適性など、いろいろな考慮が必要です。家庭によって上級学校に対する考え方は様々です。一つの価値観にとらわれず、自分の意志が十分に反映するような進路選択を家庭での一つの結果として導き出せるように、十分な話し合いをすることが重要です。

(7) 受験校数を多くせず、志望順位をはっきりさせておく。

受験日が重なっていないからと、受験する学校をあまりにも多くすることは、自分にとって精神的にも体力的にも過重な負担がかかります。合格した学校が第一の志望校ではなかったりすると挫折感をもったり、合格して入学した学校に行っても希望や自信を喪失したりして、学校生活に適応できなくなってしまう例があります。

受験校数はできる限り絞ったほうが良いでしょう。2校以上受験する場合は、どの学校を第一志望とするのか、目標を明確にし、志望順位をはっきりさせておくことが大切です。

(8) 先生とよく相談する。

市販の入学案内・学校案内に記載されている情報は、前年度の入試結果をもとにしています。入試制度の細かい点や可否の目安が実情と一致しない場合もありますが、学校の沿革や大まかな状況を知る手がかりになります。学校ごとに異なる入試の方法や入試制度などについては一部の学校を除き、中学校に最新の情報が届いています。中学校には上級学校の資料が多く届きます。不明な点や疑問点がある場合はそのままにせず、まず相談してください。先生は、求められれば相談に応じ、手許にある資料を提示いたします。しかし、先生はあくまでも相談役にすぎません。アドバイスはできても最終決定をするのは自分自身であることを忘れないでください。

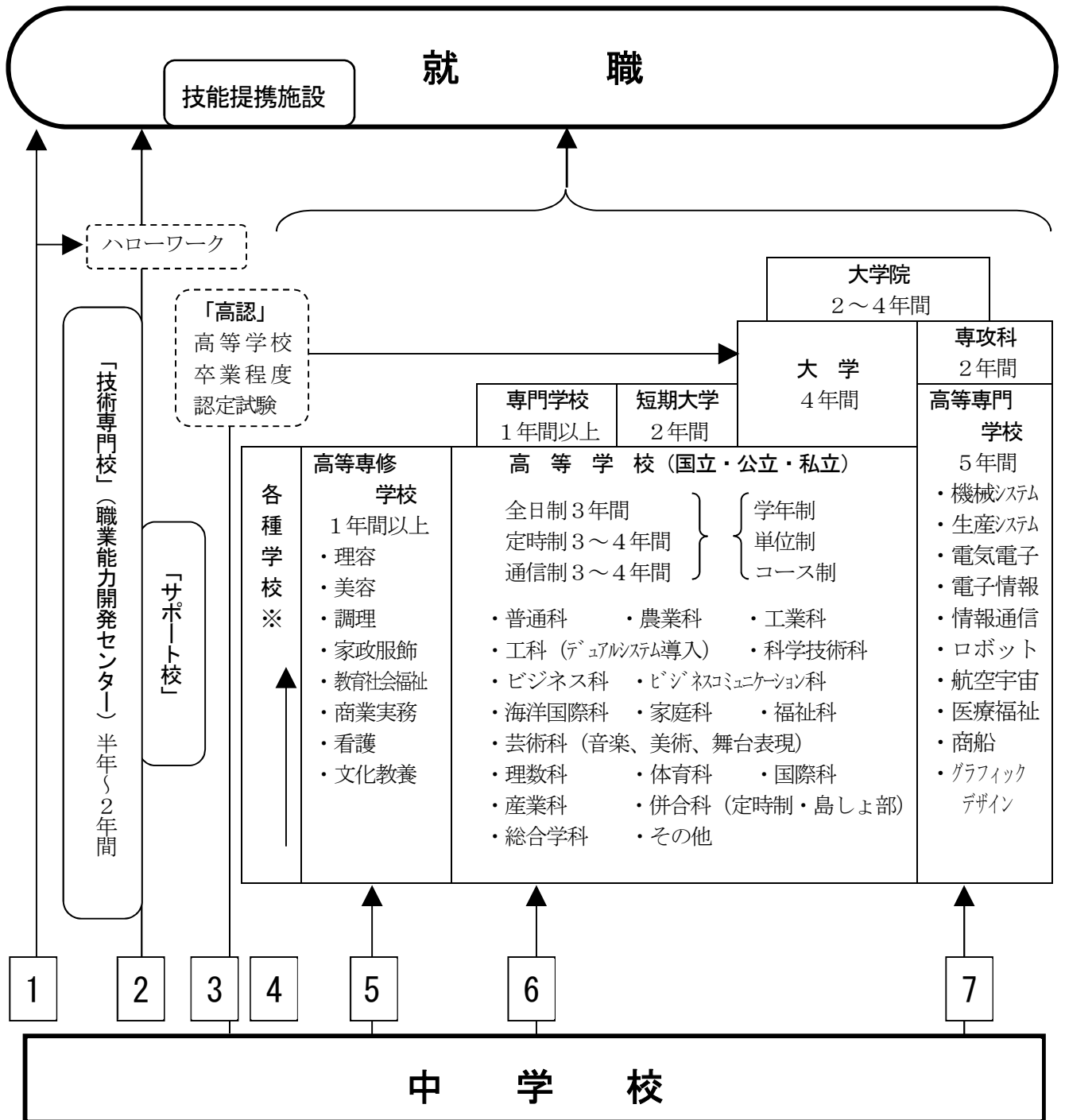
3 進路決定までの手順

◆進路決定までの手順を要約すると、次のようになります。

- ① 自分を取りまく諸条件（適性・学力・興味・関心）を確認する。
- ② 家庭の事情、保護者の考え方・方針を理解する。
- ③ 志望する進路先（志望校・事業所）の内容・特色を調べる。
- ④ 志望する進路先（志望校・事業所）を見学する。
- ⑤ 学級担任や学年の先生と相談する。
- ⑥ 志望先（志望校・事業所）を決定する。
- ⑦ 出願・入試・合格発表および採用試験までの日程を確かめる。
- ⑧ 出願に必要な書類・手続きについて知る。
- ⑨ 希望進路に合わせて準備を開始する。

これらのことを念頭におき、この「進路のしおり」並びに東京都教育委員会から配布される都立高等学校の「学校説明会日程・学校公開・体験入学等のお知らせ」リーフレット、「私立高等学校のリーフレット」等を十分活用し、より良い進路選択の参考としてください。

II 中学校卒業後の進路について



1 高等学校

(1) 設置者による分け方

- ① 国立・・・国が設置している学校です。国立大学の附属校として設置されていますが、国立大学へ進学するための優遇制度はありません。
- ② 都立・・・いわゆる都立高校です。以前は、普通科高校は学区毎に受検できる学校に制限がありましたが、現在は、原則都立高等学校は島しょ部の一部高校を除き、どこに設置されている学校でも受検することができます。
- ③ 私立・・・法律で定められた「学校法人」が設置した学校です。建学の精神、設置者の教育方針により、教育内容にはそれぞれ独特のものがあります。

(2) 課程について

- ① 全日制・・・昼間に授業が行われる学校です。修業年限は3年間です。
- ② 定時制・・・一般的に、夜間に授業が行われる学校で、修業年限は3～4年間です。最近では、午前・午後・夜間と時間帯を分けて授業を行う昼夜間定時制や単位制の学校もあります。
- ③ 通信制・・・普段は学校（自宅等）で学習し、課題レポート等の提出・添削を受けます。土・日や、夏休みなどにスクーリングのために登校をして実技教科や座学、面接指導などを受けます。スクーリングの頻度も年に数回から週に数日など様々です。

(3) 学年制と単位制

- ① 学年制・・・学年毎に履修（学習）する教科・科目があらかじめ定められていて、その学習成果が認められると単位が与えられ、次学年に進級できる制度です。
 - ② 単位制・・・原則学年の区別がなく、修業年限の中で自分に適した教科・科目を選択し、その学習成果が認められ、単位を積み重ねることによって卒業する制度です。
- * 学校により「単位制」であり「学年制」でもある学校があります。

都立高校の単位制の学校の例 新宿・国分寺・大泉桜・飛鳥・総合芸術・新宿山吹・荻窪、杉並総合 等
--

*** 都立中高一貫教育校は、6年間一貫した教育をより推進するため、現時点では、令和5年度入試の高校段階からの募集予定はありません。**

(4) 都立高等学校の学科

	学 科 名	主な教育内容
①	普 通 科	中学校で学習した内容をさらにより深く学習し、大学・短大・専門学校への進学や就職など、幅広い進路に対応します。
②	普 通 科 (コ ー ス 制)	普通科の中に属します。興味や関心、希望の進路に応えられるように学習内容の重点化を図ったコース設定があります。
③	農 業 科	農業の各分野で活躍できる技術者の育成を目指します。 (農芸<杉並区>・農業<府中市>など)
④	工 科 (工 業 科)	工業の各分野で活躍できる技術者の育成及び大学進学を目指します。(杉並工科・田無工科など)
⑤	科学技術科	科学や技術について幅広く学び、卒業後、理系の大学等において専門性を高めるための基礎力を身に付けます。
⑥	工業科 (デ ー ヴ ィ ュ シ ョ ン 導 入)	ものづくり企業で長期就業訓練を授業として受け、実践的な技術・技能を身に付けます。(六郷工科・多摩工業など)
⑦	ビジネス科 (商 業 科)	経理、情報処理などの商業の分野や国際化に対応する分野で活躍できる人材の育成を目指します
⑧	ビジネスコミュニケーション科	英語や実践的なビジネス科目を学び、社会科学系及び人文科学系大学への進学を目指します。(千早<豊島区>など)
⑨	情 報 学 科	情報の各分野に関する知識と技術を習得します。(新宿山吹)
⑩	産 業 科	生産・流通・消費の各過程の関連性を学び、起業家精神を育成します。(橘、八王子桑志など)
⑪	家 庭 科	衣食住、保育、家庭看護や介護などの知識や技術を身に付けます。(赤羽北桜、忍岡、瑞穂農芸、農業)
⑫	福 祉 科	実習や体験学習を行い、福祉に関する基礎的・基本的知識や技術を身に付けます。(赤羽北桜、野津田)
⑬	芸 術 科	音楽・美術・舞台表現に関する専門科目の学習を行います。 (総合芸術)
⑭	体 育 科	体育・スポーツに関する専門科目の学習を行います。 (駒場・野津田)
⑮	国 際 学 科	国際感覚と優れた外国語(英語など)の運用能力を身に付け、積極的に国際社会で行動できる人間を育成します。大島海洋国際高校には、航海実習を行う「海洋国際科」があります。国際高校には、海外の大学への進学を目指す「国際バカロレアコース」を設置しています。(国際・大島海洋国際)
⑯	総 合 学 科	普通科目から専門科目まで幅広い選択科目の中から、自分の特性や進路希望に合った科目を選択し、系統的、専門的に学習します。(杉並総合・東久留米総合・晴海総合など)
⑰	理 数 科	理数系分野の素養育成に重点を置きながら、幅広い教養を習得し、将来、新しい価値を生み出すことのできる人材の育成を目指します。(昨年度は立川のみ)

*水産に関する学科・・・大島海洋国際高校のみ。

(5) 多様なタイプの学校等の紹介（以下は一部です。詳しくは、7月頃東京都教育委員会より配布予定の冊子に掲載されます。）

① 進学指導重点校（普通科の中でも…）

・・・難関国公立大学、医学部進学等に対応した教育課程の編成。入学選抜における自校作成問題による学力検査の実施。土曜日や長期休業日等の補習など。

都立（日比谷・戸山・西・八王子東・青山・国立・立川（理数に関する学科あり））

② 進学指導特別推進校（普通科学年制・単位制、国際科）

・・・難関大学を中心とした大学への進学に対応した教育課程の編成。習熟度別授業や個別相談。土曜日や長期休業日等の補習など。

都立（小山台・駒場・新宿・町田・国分寺・国際・小松川）

③ 進学指導推進校（普通科）

・・・3年間の指導計画の策定や学習到達目標の設定。1、2年時から大学受験を意識させる。土曜日や長期休業中の補習など。

都立（三田・豊多摩・竹早・北園・武蔵野北・小金井北・調布北・多摩科学技術など15校）

④ 進学指導研究校（普通科）

・・・生徒の進学希望を実現するための教育活動を積極的に行う。
学習状況や進路希望に応じた個人面談の実施、学習状況に応じた補習など。

都立（保谷・向丘・文京・目黒・府中など14校）

⑤ チャレンジスクール

（学力検査を行わず、調査書は必要としない。志願申告書・面接・作文により選考する。）

・・・中学・高校の不登校を経験した者や中途退学者などがもう一度自分の目標を見つけ「チャレンジ」するための高校。

都立（桐ヶ丘・大江戸・世田谷泉・六本木・稔ヶ丘・小台橋） ▼学科は総合学科です。

⑥ エンカレッジスクール

（学力検査を行わず、調査書・面接・小論文または作文等で総合判定をする。）

・・・エンカレッジとは「励ます」「力づける」の意味で、小・中学校で十分能力を發揮できなかった生徒のやる気を育て、頑張りを励まし、応援する高校。

都立（足立東・秋留台・練馬工科・東村山・蒲田・中野工科）

⑦ 昼夜間定時制

- ・・・3部制（午前・午後・夜間）、4部制（午前・昼間・午後・夜間）があり、午前に在籍の生徒が昼間の授業の一部を履修する「他部履修」なども可能（この「他部履修」によって、3年間で卒業が可能となる）。

都立（3部制：一橋・浅草・荻窪・八王子拓真・砂川・⑤のチャレンジスクール）
都立（4部制：新宿山吹）

⑧ 理数研究校・S I P研究校

- ・・・理数に関わる高度な探究活動及び特色ある教育活動を積極的に行う。
理数に関わる探究活動等の成果を活用した大学入学者選抜に挑戦する生徒を増やす取り組みや大学と連携した探究活動等を行う。

理数研究校 都立（西・竹早・新宿・北園・小金井北・国立など）
S I P研究校 都立（田無、荻窪、大山など）

⑨ チーム・メディカル

- ・・・入学時に、医学部への進学を希望する生徒同士でクラス横断的なチームを結成し、病院への職場見学や大学医学部教授による模擬授業等のキャリア教育を通して、医師になる志を育む。

都立（戸山）

⑩ 英語教育研究推進校

- ・・・生徒の英語によるコミュニケーション能力の向上を図るために英語教育の推進に重点を置く学校（英語による言語活動の充実を図る）。

都立（青山、新宿、杉並、調布北、小金井北、国立、保谷、駒場など）
*指定期間は令和6年度までです。

⑪ GE—NET 20

- ・・・東京グローバル人材育成指針に基づく先進的な取り組みを推進し、将来、国際社会の様々な分野・組織で活躍できる人材の育成を目指す学校。

都立（日比谷、戸山、西、三田、国際、小平など）
*指定期間は令和6年度までです。

⑫ 地域探究推進校

- ・・・探究的な学びを通して、地域の課題を発見し、その解決を図ることによって将来、地域で活躍する人材の育成を目指す学校。

都立（新宿山吹、府中など）

(6) 通信制高等学校 ならびに 広域通信制高等学校と、その学習補助を目的として設置されている民間教育施設（いわゆるサポート校）について

通信制高等学校とは、カリキュラムに沿って課題レポートを提出し、添削を受けて単位を修得するスタイルの高等学校です。公立と私立があり、特に私立の通信制高校は近年、海外を拠点にするジュニアトップアスリートの在学や、カリキュラム自由度の高さを求める生徒・保護者ニーズの増加により需要が高まり、学校数も増加傾向にあります。

レポート提出の他、定期的に「スクーリング」といって、学校に出向いて面接などを受ける必要があります。学校所在地が東京以外の学校も、東京にスクーリング会場やキャンパスを置き、東京の生徒も近隣で入学できるように配慮されている学校（これを広域通信制高等学校といいます）もあり、その数は年々増加しています。私立の通信制高校の中にはICT技術の進展により、インターネット上でスクーリングの一部を代替する学校も出てきました。

卒業するためには、一定の単位数を取得する必要があります、基本的には3年間（場合によっては4年以上）在学して卒業します。通信制高校は独学になるため、適切なサポートがない場合、3年間で卒業できるのは20～30%とも言われています。

そこで、サポート校と呼ばれる民間の教育施設があります。通信制高校と連携（同時入学）して通信制高校の教材・学習のフォローを行っている施設です。（サポート校は、「学校」としての認可を受けていないので、サポート校だけでは高卒の資格は取得できません。）

<通信制高校・広域通信制高校の例> ※年度ごとに変わっています。

都立 新宿山吹高校 一橋高校 砂川高校 **都内私立** 科学技術学園高校 国士舘高校

北豊島高校 東海大学附属望星高校 NHK学園高校 立志舎高校 大原学園高校 など

私立広域通信制(本校所在地) クラーク記念国際高校(北海道) 第一学院高校(茨城) 飛鳥未来高校(奈良)

N高等学校(沖縄) 未来高等学校(愛媛) 明聖高等学校(千葉) KTC屋久島おおぞら高校(鹿児島) など

2 高等専門学校

高等専門学校は、該当する分野について5年間の一貫した高等専門教育を行う、大学とならぶ高等教育機関です。中学校卒業生を対象としていますが、学校の性格上から高等専門学校生は大学生と同様に「学生」と呼ばれ、先生も教授、助教授、講師、助手に分かれ（この形態を「教授制」といいます。）、教育と研究に携わっています。

5年生になると、大学と同じように「卒業研究」があり、研究室での生活が中心となります。また、多数の学生が研究成果を関連する学会などで発表しています。卒業生には「準学士」の称号が与えられます。4年制の工業系大学に編入することも可能で、大学には高等専門学校生を受け入れるための編入枠が用意されています。

高等学校・専修学校とは制度・授業内容、修業年限などが全く違っています。

(1) 高等専門学校の学科

機械工学科・航空工学科・電子工学科・電気工学科・グラフィックデザイン科など工業関連の専門科が設けられています。

内容としては、自動車、工作機械、エンジン、ロボット、エレクトロニクス、情報処理、通信、制御、コンピュータなどがあります。

(2) 卒業後の進路

高等専門学校の卒業生は大学3年への編入のほか、専門性を生かし、希望者のほぼ100%が就職しています。業種別に見ると、輸送・精密機械・電気機器・化学産業等で、大企業においても大学卒業生と同等の待遇を受けることができます。大企業内では、研究・設計部門・開発・生産管理部門など技術系の職場で活躍しています。最近では、女子の数も多くなってきています。

(3) 東京にある高等専門学校

国立：東京工業高等専門学校（八王子市）
都立：産業技術高等専門学校 品川キャンパス・荒川キャンパス
私立：サレジオ工業高等専門学校（町田市）

3 専修学校高等課程（高等専修学校）・各種学校

専門的かつ実践的な知識・技能・技術を短期間に習得できる教育施設です。

教育内容・施設設備・教育理念・教育方法・経費などいろいろです。高等専修学校は中学校卒業者を対象としていますが、各種学校は年齢、性別の制限はほとんどないようです。また、専門学校は高等学校・大学を卒業してから専門技術を身に付けるために入学する人も少なくありません。

(1) 専修学校の課程

- ① **高等課程**・・・専修学校のうち、中学校を卒業した生徒などを対象とした教育課程（高等課程）をもつ専修学校を高等専修学校といいます。（学校教育法第125条）
学科により1年～3年・5年制までいろいろなコースがあります。高等課程の3年制を修了すると専門課程へ進むことができます。また、大学入学資格の指定を受けている学校であれば、大学や短期大学を受験することも可能です。
- ② **専門課程**・・・専修学校の内、高等学校を卒業した生徒などを対象とした教育課程（専門課程）をもつ専修学校を専門学校といいます。（学校教育法第126条）
専修学校の多くは専門課程（専門学校）で、高等課程をもっているところはあまり多くありません。
- ③ **一般課程**・・・専修学校のうち、職業もしくは実際生活に必要な能力を育成し、または教養の向上を図ることを目的とした①・②以外の課程です。一般の社会人を対象としています。年齢や学歴に関係なく幅広く学べる学校です。

(2) 選抜の方法

入学希望者の選抜は学校によってさまざまです。学科試験を行うところもあれば、書類審査・作文・面接などを行うところもあります。選考方法は違いますが、入学するにあたって本人の目的意識や意欲を重視することについてはどの学校も変わりません。

(3) 専修学校の内容・種類

- ① **工業分野（電気工事士、自動車整備）**
工業的な内容を学習する分野です。中学卒業でも入学できる高等課程は、電気工事・自動車整備・機械操作資格の取得などができる学校が都内に何校かあります。
- ② **農業分野**
農業を中心に園芸・酪農などの学習をします。都内には高等課程はありません。
- ③ **医療分野**
医療関係の分野です。現在都内に20校ほどあります。ほとんどが2年生の准看護師をめざす課程です。内容も難しく競争率も高いです。准看護師は、正看護師の指示を受けて仕事をします。生命をあずかる大切な仕事ですから、健康で責任感ある人が求められます。最近、男子の希望者も多くなっています。
- ④ **教育・社会福祉分野**
主に、幼稚園教員・保育所の保育士を養成しています。この分野の学校に入るためには、高等学校または3年制の専修学校高等課程を卒業（修了）していることが条件となります。

⑤ 衛生分野（調理・製菓・理容・美容）

この分野は、大きく分けて2つのグループに分かれます。

- 調理・製菓・・・調理の学校は都内に17校、（1年制昼間と1年半制夜間、3年制昼間）があります。また、製菓の学校は3校あります。料理が好きなことはもちろん、芸術的なセンスが求められます。多量の食事を作ることもあり、体力も要求されます。最近では、店の経営などに関わることから経済や経営法規についての知識が要求される場合があります。

<関連資格> 調理師

- 理容・美容・・・都内に15校あり、いずれも理容師・美容師の資格を取得することを目的とした学校です。最近では、ヘアーだけでなくメイクアップやファッションなどを含めた幅広い勉強をしています。

<関連資格> 卒業後学科試験を受けます。その後1年間以上理容店、美容店で実習（見習い）を行い、実地試験を受け、合格して初めて理容師・美容師の資格が得られます。

⑥ 商業実務分野（経理・簿記）

情報処理や会計処理をはじめ、ビジネス基礎を中心にコンピュータを活用した学習をします。根気よく勉強すれば、卒業するまでに簿記検定や情報処理検定などいろいろな資格に挑戦することができます。

⑦ 服飾・家政分野（洋裁・和裁・家政）

洋裁・和裁・編み物・手芸などを通して家庭生活に役立つことを学ぶ一方、ファッションデザイン・コーディネートなど、時代をとらえた幅広い教育が行われています。都内には25校あり、3年制の学校が多いようです。

<就職>ファッションメーカー(技術・企画・販売)・ブティックなどの販売、縫製工場など。

⑧ 文化・教養分野（英語・美術・演劇）

この分野は、資格というより幅広い教養を身に付けることが目的です。学科の数が多いたが特徴です。専修学校高等課程では、英語・美術・演劇など6校がありますが、その人の適性が大きく影響します。

(4) 企業内に設置された専修学校

企業に働く人が、賃金の支給を受けながら、その企業にある職種に必要な知識や技能を身に付けるために、企業内に設けられた訓練施設であるとともに、高等課程、専門課程のある専修学校です。一つの企業が単独で行っているものと、同種の複数の企業が共同で施設をもち訓練を行うものがあります。

豊田工業高等学園（トヨタ自動車）	愛知県
日立工業専修学校（日立製作所）	茨城県
日野工業高等学園（日野自動車）	東京都日野市
デンソー工業学園（(株)デンソー）	愛知県

一般的に、これらの学校に入学を希望する場合は、体験入学等を通じてその学校の特性をよく理解した上で応募します。体験入学に関しては、中学校進路担当を通す必要がありますので、掲示板等をご確認の上、担当までお申し出ください。

(5) 高等専修学校を卒業したら

専修学校高等課程を卒業すると、それぞれの学校で学んだことを生かした仕事に就く人が多いようです。さらに学習を続けたい人は、専修学校専門課程（専門学校）に進学したり、短期大学・大学に進学したりする道が開かれています。

(注)：大学・短期大学に入学するためには、大学入学資格を付与できる高等専修学校であるか、または、技能連携などで高等専修学校卒業（修了）と同時に高等学校卒業の資格の得られる通信制高等学校への在籍（二重学籍）が必要となります。都内私立専修学校のうち、高等課程を設定している学校もありますが少数です。

(6) 各種学校・その他

① 各種学校

各種学校は、3ヶ月～1年間程度の短期間に技術・教養等を学習する学校です。ただし、修了しても高等学校卒業の認定にはなりません。

② 高等学校卒業程度認定試験（旧大学入学資格検定「大検」）

この制度は、さまざまな理由で高等学校を卒業できなかった人の学習成果を適切に評価し、高等学校を卒業した人と同等以上の学力があるかどうかを認定するための試験です。合格者は、大学や短大、専門学校の受験資格が与えられます。また、高等学校卒業者と同等以上の学力がある者として認定され、就職や資格試験に活用することができます。

働いている人たちの中には、いろいろな事情で高等学校に進学しなかったり、定時制や通信制の高等学校に行けなかったり、または途中でやめてしまったりして卒業していない人がいます。そのような人たちに大学進学の手を届ける制度です。

この認定試験は、高等学校卒業を認定するのではなく大学入学資格を付与するものです。文部科学省で毎年2回（8月・11月）認定試験が行われます。インターネットで「高等学校卒業程度認定試験」を検索すると、受験日や手続きに必要な書類などについての情報が得られます。毎年2万人以上の出願者があり、合格率は40～50%。（令和元年度：22474人受験・合格8931人）

③ サポート校

→10ページの通信制高校・広域通信制高校の項をご確認ください。

4 都立職業能力開発センター

以前は「職業訓練校」とよばれていたものが、高等職業技術専門校に変わり、2007年4月からそれらが4つの東京都立職業能力開発センターグループに改組されました。専門の技能工の養成を目的として、厚生労働省が主管し、各都道府県に設置されているものです。

中央・城北職業能力開発センター（文京区） （赤羽校・板橋校）	城南職業能力開発センター（品川区） （大田校）
城東職業能力開発センター（足立区） （江戸川校・台東校）	多摩職業能力開発センター（昭島市） （八王子校・府中校）

訓練種目は100種におよび、実習を主とした6ヶ月～2年程度の職業訓練が行われますが、ほとんどの訓練種目は高校卒業、または高校卒業程度の学力をもつ人が対象です。修了したあとはハローワークを通して就職することになります。

中学校卒業者が受けられるコースは下表の通りです（昨年度のもの）。

◆昼間の2年コース <数学と国語の簡単な筆記試験・面接を行います。>

科 名	内 容	主な就職先	実施校と定員
機械加工	<訓練内容> ○旋盤、フライス盤などの汎用工作機械による加工技術 ○マシニングセンタ等各種NC機械による加工技術 ○NCプログラミング作成技術 ○CAD/CAMシステムの操作技術 <取得資格> ○技能士補（終了時試験合格者） ○自由研削砥石(といし)特別教育修了証 ○ガス溶接技能講習修了証 ○アーク溶接特別教育修了証	・光学機器、工作機械等製造業 ・金属製品製造業 ・電気機器製造業 ・金型製造業 ・自動車部品製造業	◆板橋 25名 ◆江戸川 30名

* 2年コースは推薦入校選考制度があります。

昼間の6か月コース 数学と国語の簡単な筆記試験・面接を行います。

科 名	内 容	主な就職先	実施校と定員
介護サービス	◎介護職員基礎研修に基づき、高齢者・障害者等を対象とする質の高い介護者の養成	老人福祉施設・障害者施設・病院・老人保健施設	板橋15名
プラスチック加工	◎OA機器、日用品等あらゆる分野で使用されているプラスチック製品の製作に必要な知識技能の習得	プラスチック成型加工・樹脂板加工会社	板橋30名

*年に数回募集があり、だれでも応募できますが、推薦選考はありません。
他にも6か月コースの科目はいくつかあります。

- ◆ 板橋校の体験入校も予定されています。
詳細は、各職業能力開発センターまたは、産業労働局雇用就業部能力開発課へお問い合わせください。資料：TOKYOはたらくネット
⇒昨年度の入校案内がPDFで示されています。

5 就 職

(1) 就職先を決める

① 就職先を見つける方法・手順

- ア ハローワーク（公共職業安定所）を通して職場を見付け、就職する。
- イ 縁故（家業・親戚・知人）で就職する。あるいは家業を継ぐ。
- ウ その他の求職情報により就職先を見付ける。

＜中学卒業者がハローワークで紹介されるおもな職種＞

販売店員・営業見習・機械工・溶接工・板金工・メッキ工・製品検査工・配線組立工
自動車整備工・縫製工・印刷工・プラスチック成型工・包装工・理容見習・美容見習
ウェイトレス、ウェイター・調理師見習・洋菓子製造工・建築大工・電気工 etc

② 中卒就職の課題とポイント

中学校卒業者の離職率はとても高く、1年以内に4割近くになるといわれています。また、2年目以降の離職者の数も少なくありません。また、大学卒業者の就職難のニュースを聞くことがありますが、大卒よりも高卒、高卒よりも中卒の就職の方が厳しいのが現実です。

不本意な離職の危機を避け、将来の展望に合った就職先を見付けるには、自分の希望や性格、適性や能力を考えることはもちろんですが、具体的な就職場所の候補があがったとき、実際に見学をして働く現場の状況をよく知ることが大切です。

就職は、雇用条件（賃金・労働条件・休日など）をあらかじめ確認しておくことが大切です。

② ハローワーク（公共職業安定所）を通じた就職活動

9月	職業相談の実施
10月	第1回求人票回覧
12月	職業安定所への就職希望者の書類提出
1月	都内統一選考開始
2月	合格発表
3月	入社前指導

ここ数年、中学校卒業者が減少していたことに対して、求人数は若手社員の人手不足感の影響から増加した年もあり、ここ数年は建設業・飲食業を中心に、どちらかと言えば「売り手市場」の状況もありました。しかし、新型コロナウイルス感染症の広がりに伴う業務縮小が影響し、本年度の就職については状況がぎりぎりまでわからないというのが正直なところです。「じゃあ、就職でもするか」という気持ちで安易に就職場所を選んでしまったり、3月になってから本格的に探そうとしたりしても、自分に合う安定した生活を送ることができる事業所への就職は難しいでしょう。

「高等学校に行かなかったから就職する」という考えで、就職に走ることは避けたいものです。早めに自分の進路を見極め、就職活動をするときは地道に行うことが大切です。

(2) 就職しながら学ぶ道

近年は、中学校卒業後に上級学校へ進学する人が多いのですが、定時制高等学校に通学しながら就職をする人たちもいます。このように、働きながら勉学を補償できるように設置されたのが定時制高等学校です。最近では通常の就職（朝 9:00～夕 5:00 まで）をして、なおかつ定時制高等学校にも通うのではなく、自分の生活時間に合わせて定時制高等学校を選ぶ人も多くなり、定時制高等学校も、午前・午後・夜の時間帯と一日を通して定時制課程を組む学校もあります。

一般的に夜間に授業を行う定時制高等学校は、中卒者の他、高齢の生徒がいることもあります。また、職業なども多岐にわたり、幅のある生徒で学習集団が構成されることもあります。

定時制高等学校の他、各種学校に通って専門的な知識や技能を培いながら働いている人もいます。

① 都立高等学校 定時制課程

定時制課程は、就学時間が全日制課程と異なるだけで内容・質に何ら変わりはありません。一般の夜間の定時制課程は始業時刻が夕方になるために、高等学校の全課程の単位を取得するのに時間がかかり、卒業まで4年間高校に通うことが一般的です。しかし、学年制をとらず単位制としたり、夜間だけでなく昼間の時間帯にも授業を設定したりすることにより、3年間で卒業できる学校もあります。

都立高等学校の定時制課程は近年大きく再編成され、急激に減少しています。以前は設置されていたとしても、現在は存在していない場合もあります。また、専門学科（工業系や商業系）の定時制高等学校は学校規模により希望する「科」「コース」が限られる場合があります。一方で、同じ高校名となっても、全日制課程は専門学科しか設置されていないが、定時制では普通科も設置されているという学校もあります。従って、希望する定時制高等学校の種類や、自宅・職場からの交通の便などを考え、慎重に選ぶ必要があります。

<定 時 制>	普通科	豊島高校	大山高校	など
	職業科	農芸高校	中野工科高校	など
<昼夜間定時制>	普通科	荻窪高校（単位制）		など

資料：東京都教育委員会 ホームページ 都立高校検索サイト

② 私立高等学校 定時制課程

私立高等学校定時制課程の教育内容は都立に準じています。通学時間帯が一般の全日制と全く変わらない学校もあります。これは、学校設置の認可を受けるときに学校施設規模等の制約により、全日制としての認可ではなく、定時制として開校しているからです。

もちろん、夜間に授業を行う学校もあります。全日制を併設している私立高等学校では、学校内で全日制への移籍が可能な高等学校もあります。

私立定時制高等学校は、一校一校特色がありますのでよく調べる必要があります。

中央大学高等学校 駿台学園高等学校 国士舘高等学校 科学技術学園高等学校など

*受験時点では内容に変更が生じる場合もあります。詳しくは高等学校のホームページや説明会等で確認してください。

Ⅲ 推薦制度について

実際に進路希望を具体化し、書類の準備に取りかかるときに考えなければならないものに「**推薦制度**」があげられます。

推薦制度、もしくはそれに準じた制度の利用を希望する場合には、以下の**第1**から**第5**を注意してください。

第1 「推薦」は中学校長が生徒の希望する上級学校に対し

※「**その上級学校が第一志望である**」
※「**受験し、合格したら必ず進学する**」

を条件に、本人の中学校での学習態度や生活態度、学びの意欲を評価して「推薦」するというものです。推薦基準は19ページに記載されています。推薦をしてもらおうという理由だけで態度がにわかに良くなるのでは、推薦にふさわしいかを判断できません。1年生、2年生の時、再三注意されていた人はそのことを忘れずに、3年生として、毎日をきちんと生活しましょう。

第2 学校種によって「**推薦制度**」には大きな違いがあります。

- 都立では、定員の一定割合について推薦枠を設けていますが、推薦を受けたからといって必ず合格するとは限りません。(受検倍率は非常に高くなります。)
- 私立では、多くの学校で都立よりも多くの推薦枠(50%程度が多い)を設けています。基準(成績の数値)を満たしているとかかなり高い確率で合格します。
- 少数の私立では、都立と同じように「推薦枠」が少なく、学力考査(面接、小論文、英語の問答等を含む場合もある)で選抜され、合格率が低い学校があります。基準(成績の数値)が設定されている場合がほとんどですが、受験に必要な最低限の数値として示されます。

第3 「**推薦ではないが優遇される制度**」も私立によってはあります。

私立高校・私立高等専門学校等の一般入試において、推薦入試とは別に、合格したら必ず入学することを前提に、入試得点に加点をするなどの優遇措置を設けている学校があります。「**第一志望優遇制度**」や「**併願優遇制度**」および「**自己推薦制度**」などがあります。「**第一志望優遇制度**」は当該校を第一志望とし、合格した場合は必ず制度を用いた高校に進学する受験者が対象です。「**併願優遇制度**」は主に公立高校が第一志望で、公立高校が不合格だったら、その私立に入学することが条件になります。志望校でどのような制度が実施されているのかをよく調べておく必要があります。(私立高校併願可の学校も増えています。)

第4 私立高校の中には「**公立高校との併願**」に、手続きや届けが必要な学校もあります。これは、都立学校が第一希望で私立も受験する場合、日程上私立が早く試験を行うので、合格をしたときに都立発表日まで私立の入学手続きを延期(入学金等の延納)するためです。入学願書にあらかじめ記入するような学校もあれば、別に中学校長名で都立受検の証明を必要とする場合もあります。また、「**推薦**」は必ず入学することが前提であることを承知してください。

第5 「**進学先決定後の受験**」はやめてください。(東京都教育委員会からも通知がありました。)

私立・都立に関わりなく、推薦制度を利用して合格し、進学先が決まったら、以後の一般受験はしないでください。

上石神井中学校の推薦基準

高校受験では全ての都立高校で、また私立高校でも多くの学校が推薦制度を用いた受験を実施しています。上石神井中学校では下記の基準をもとに、高校生活を3年間しっかりと送ることができるであろう生徒を、中学校長の名のもとに推薦します。

推薦基準は以下の7項目です。3年生の全員が推薦希望者になれるよう、学校生活をきちんと送っていきましょう。

- ① 希望する上級学校の教育理念をよく理解し、強い進学のある意志がある生徒。
(「推薦願」を提出した後は志望校の変更はできません)
- ② 希望する上級学校が提示する推薦基準を満たしている生徒。
(高校が提示する内申点や出席日数等を満たしていることは必須条件です)
- ③ 日々の授業に前向きに取り組み、自己の進路の実現に向けて目的意識をもって努力している生徒。(授業態度が良く、ノートをとり、忘れ物がなく、提出物を出していること)
- ④ 学校行事に積極的に参加し、生徒会活動や学級活動に意欲的に取り組んでいる生徒。
(クラスに協力し、行事の練習に取り組んでいること、委員会や係、日直や当番活動をさぼることなく自主的に取り組んでいること)
- ⑤ 集団生活の中で思いやりの心をもって行動し、指導に従うことができている生徒。
(人に暴言を言ったり、暴力をふるったり、迷惑をかけたたりしないこと、人の話を素直に聞き、反社会的な態度をとったりしないこと。)
- ⑥ 社会生活のルールや学校のルールを守り、望ましい学校生活を送っている生徒。
(挨拶、礼儀、言葉遣い、頭髪、服装、持ち物、公共心など)
(学校内外において、中学生として常識的な言動をとっていること)
- ⑦ 出席状況が良好な生徒。(遅刻や早退なども少ないこと)
(登校時間やチャイム着席を守って生活していること)

※ 進路決定後に上記の条件に違反する行為があった場合には推薦を取り消すこともあります。推薦だけでなく、併願優遇においても上記の基準に準じます。

IV 奨学金制度について

上級学校に行くということは入学金や授業料等の学費がかかりますが、経済的に学費の捻出が難しい、兄弟が多く生活費、教育費の負担が限界である等、家庭の事情も様々です。

そこで、以下の表に、昨年度、公的機関や諸団体が行った奨学金制度をまとめましたので参考にしてください。今年度の奨学金制度の募集につきましては、分かり次第、進路だよりや学年通信等でお知らせします。なお、昨年度は募集を行ったが、今年度は募集を行わないということもあり得ますので、ご了承ください。対象、条件、他の制度との併用が可能かなど、今年度の詳しい内容については、分かり次第、別途お知らせします。

	実施機関・制度名	連絡先	備考
国 共 通 事 業	交通遺児育英会奨学金	交通遺児育英会 03-3556-0773	交通遺児貸付
	あしなが奨学金	あしなが育英会 03-3221-0888	病気、災害遺児貸付
	私立高等学校等入学支度金貸付制度	東京都私学財団 03-5206-7926	
	私立授業料軽減助成	東京都私学財団 03-5206-7925	
東 京 都 関 係 事 業	東京都育英資金(予約募集)	東京都私学財団 03-5206-7929	* 中学校でまとめて申し込み
	東京都母子福祉資金	住所地の福祉事務所・支庁	
	女性福祉資金	住所地(市町村)の福祉事務所・支庁	
	生活福祉資金	住所地の福祉協議会	
区 等	区市町村の奨学金制度	住所地の各区市町村窓口	
国	日本政策金融公庫 (旧国民生活金融公庫)	0570-00-8656	国の教育ローン
参 考	高等学校等就学支援金制度 (高校無償化に関連)	文部科学省	高校での申請

表中の*印・・・東京都育英資金は中学校でまとめて申し込みます。希望するご家庭は、指定された締め切り日(分かり次第進路だより等でお知らせします)までに担任まで申し出て必要な書類を受け取ってください。検討するために資料が必要な場合も申し出てください。高等専門学校に進学の場合は進学後の申し込みとなり、中学校で予約申し込みはできません。

また、民間の奨学金もいくつか案内が来ることがあります。昨年度は以下の2つでした。
古岡奨学金(母子家庭の子女で経済的に困窮している場合 平均評定4.0以上程度)
似鳥国際奨学財団 高校生対象奨学金(前年の評定3.8以上で応募資格がある)

V 本校の進路状況について

(令和5年度進路状況)

	計
国・公立高等学校	63
私立高等学校	50
高等専門学校	0
高等専修学校等	0
合計	113

都立高等学校		私立・高等専門学校等		
赤羽北桜	千歳丘	科学技術学園	東亜学園	立教新座
井草	千早	川村	東京女子学院	立志舎
大泉桜	豊多摩	関西大学北陽	東京立正	早稲田大学高等学院
荻窪	西	共立女子第二	桐朋女子	東京文理学院
清瀬	練馬	錦城	豊島学院	N高
工芸	農芸	慶応義塾	日本体育大学桜華	その他
小平	東久留米総合	京華	日本大学櫻丘	
小平西	東村山	佼成学園	日本大学第二	
鷺宮	光丘	國學院	日本大学鶴ヶ丘	
石神井	文京	実践学園	藤村女子	
杉並工科	保谷	自由学園	文化学園杉並	
杉並総合	武蔵丘	西武台	明星学園	
田無	武蔵野北	専修大学附属	武蔵野	
田無工科	稔ヶ丘	拓殖大学第一	武蔵野大学	
立川	六本木	中央大学杉並	明治学院東村山	

練馬区立上石神井中学校

練馬区立上石神井中学校				
年	組	番	氏名	